



境内〈内〉

[左] 境内にできた基礎コンクリート
[下] ミキサー車で生コンクリートを流し込み、基礎が造られます

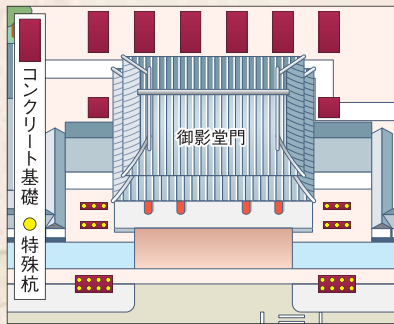


御修復のあゆみ く 伝承された先達の願い く

御影堂門仮設素屋根建設工事 — 基礎工事 —



境内〈外〉 [右] 離れた場所はポンプ車を使って生コンクリートを流し込みます [左上] 杭と鉄筋の型枠内に生コンクリートを投入 [左下] 流し込まれた生コンクリートを手作業で均して固めます



御影堂門 コンクリート基礎設置箇所

御影堂門の仮設素屋根建設工事の基礎工事が完了しました。この工事は、四百トンにも及ぶ鉄骨を支える基盤となるため、素屋根を建設する上で最も重要な工事となります。御影堂門の内側（境内白洲）では、鉄筋が組み上げられた八ヶ所の型枠内へ生コンクリートを流し込み、固めて

基礎を造ります。御影堂門の外側（烏丸通沿い）では、事前の地盤耐力調査（本誌二〇一〇年九月号掲載）の結果、表層の地盤が軟弱であることがわかっていました。また、周辺にお堀があつて基礎を造る広い場所がないため、杭打工法という最小限の範囲で荷重がかけられるような基礎工事を行いました。この工事では、約四mの杭を地中に打ち込み、支持層まで到達させ、計二十八本で六ヶ所の基礎を造り、安定した支持力を確保します。五月末からは、大型クレーンを使用し、基礎の上に鉄骨を組み上げる工事が進められています。